

物の移動、陸海空と進化

2015年4月19日
朝日新聞GLOVE

- 紀元前 古代ローマ 主要都市を結ぶローマ街道の敷設
- 飛鳥時代 聖徳太子が遣隋使を派遣
- 鎌倉時代 港や街道に、物流の差配を行う問(とい)と呼ばれる業者が登場
- 15世紀 欧州で大航海時代が始まる
- 江戸時代 コメなどを運んだ定期船が江戸～大阪間2～3週間で結ぶ。
飛脚は6日程度で文書や貨幣などを配達
- 1800年前後 英国で産業革命がおこる、
蒸気機関車の発明
- 1880年代 ドイツでガソリン自動車の発明
- 1914年 大西洋と太平洋を結ぶパナマ運河が開通
- 1918年 米国で飛行機による郵便輸送がはじまる
- 1950年代 コンテナ船の発明
- 1966年 高速道路と長距離トラックが普及し、貨物取扱量でトラックが鉄道を抜く
- 1976年 ヤマト運輸が宅急便を開始
- 2000年代 インターネット通販が本格化

より速く、より遠く、より楽に・・・人類は太古の時代から物を運ぶための工夫を重ねてきた。

最初の大きな発明は車輪だろう。最古の陸上輸送手段だったソリに、車輪を付けたのは紀元前3000年ごろのシュメール人だったとされる。紀元前3世紀のイタリア半島では、戦闘馬車が通る道としてアッピア街道が整備された。街道は交易を盛んにし古代ローマの繁栄を支えた。

帆船や羅針盤が発達した15世紀、欧州各国が交易のための航路開拓を競う大航海時代を迎え、コロンブスによるアメリカ大陸到達などに結びついた。

乗り物の進化はさらに、物流を盛んにした。18世紀には英国のジェームズ・ワットが蒸気機関を発明すると、19世紀に入って蒸気機関車や蒸気船が相次いで実用化された。19世紀後半にはドイツでカール・ベンツらがガソリン自動車を発明。続く20世紀はじめにライト兄弟による有人物力飛行が成功し、陸・海・空の輸送能力が飛躍的に向上した。

1914年にパナマ運河が開通するなど、海路や陸路も世界規模で整った。インフラを活用し、米国のUPSやフェデックス、独DHL、オランダのTNTなど物流を専門とする企業が育った。日本でも戦前から戦後にかけてヤマト運輸や日本通運、佐川急便などが創業した。(和気 真也)